

学校通信

学校教育目標：「社会人基礎力の育成」

令和3年1月27日 第26号

四万十町立大正中学校



道徳参観日のようす

1月23日（土）5時間目に道徳の時間を保護者の皆様に見て頂きました。

1年生の題材は「トマトとメロン」。自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする態度を育てることをねらいとして授業を行いました。

自分の良さ、友達の良さを語り合い、お互いに理解し合おうとする活動ができていました。それぞれの「良さ」をより伸ばすために、次のような意見がでていました。（抜粋）

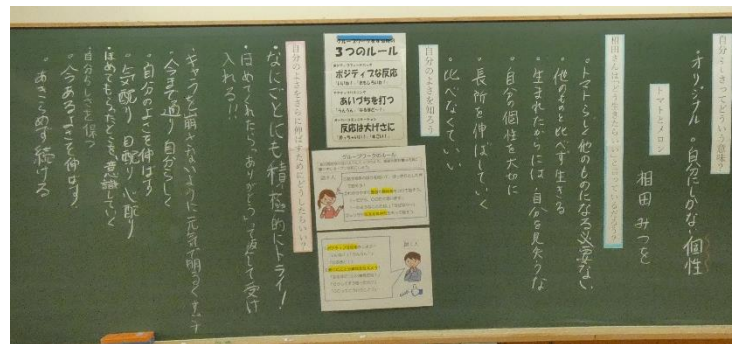
「やっていることを止めずに続ける。周りの人とあまり比べない。」「もっと勉強をして何事にも積極的にトライ!」「マイナス思考にならず、褒められたら『ありがとう』って答える!」「キャラを崩さないように元気で明るくいる。」「みんなに褒めてもらったことをこれからも続ける。」「今まで通り自分らしく生きる。」

自分のよさをクラスのみんなに認めてもらい、自信が持つことができた授業でした。

2年生の題材は「掃除の神様が教えてくれたこと」。社会の一員として自分の役割や責任をもち、仕事に向かう姿勢や勤労に対する意欲を高めることをねらいとして授業を行いました。

「やりたくない仕事を任せられたら?」の質問に「とりあえずやってみよう。」「やってみれば変わるかも?」という前向きな意見の一方で、「やりたくない。」「精神的にきつい。」と、正直な声も。でも、「やりたくないは通用しないよなあ。」というつぶやきも。

でも、資料を読んで、話し合っているうちに、「誰かのためにと考えて取り組む。」「頑張るぞ!」「一つひとつ丁寧に。」という意見にまとまっていきました。「すべてはゲスト（お客さん）のために。」この一言が響きましたね。



3年生の題材は「風に立つライオン」。内なる弱さと向き合い、それを克服することで生きることの喜びを見出そうとする実践意欲を育てることをねらいとして授業を行いました。

主人公は恋人がいたけれど、以前より希望していた海外での医療従事者を選んだ。日本に帰りたい気持ち、折れそうな心。未知の病気との対峙、不安定な情勢など困難があっても夢や理想に向かって立ち続けようとする姿。「風に立つライオン」に姿を重ねる主人公。

その主人公と自分を重ねながら、自分のこれからの人生を考えていき、次のような考えを披露してくれました。

（抜粋）

「自分の選択は自分で決める。」「自分の人生をどう使うか、人生の選択について考えることができた。」「夢も大切にしたいけど、自分が大切にしたい人もめちゃくちゃ大切にしたいと思った。自分の今の状況を理解することができたからもっと風に立ち向かいたい。」「自分で選んだ道はしっかり進もうと思った。」

3年生になると、随分と力強い考えに至るのだと感じました。



本校では学年団の先生が輪番で道徳の授業を行っています。毎時間学年団で授業の準備に取りかかり、先生方が協力し合って授業を行っています。

昨年度までの2年間、高知大学教職大学院で道徳の研究に携わっていた平林香里先生が中心になって、各学年団の授業内容の指導も行ってくれています。

～すべては子供たちの成長のために～

道徳の授業を通して子供たちが自分の生き方を考え、自立した人間として周りの人たちと共によりよく生きていくことができるように育てていきたいと考えています。

是非、この機会にご家庭でも、「これからの人生」について子供たちと語り合ってもらえれば、皆様の経験が子供たちに伝えられ、より深みのある人生観にたどり着くものと思われます。

照れくさいかもしれませんが、話をするきっかけづくりとして、日々の道徳の時間について「今日はどんな内容だったの?」と問いかけてみてはいかがでしょうか。